

各位

盛岡信用金庫

当金庫のSDGs取組みに係る
岩手日報タブロイド版別刷特集への記事掲載について

盛岡信用金庫（理事長 浅沼 晃）は、明治36年1月の創立以来「共存同栄」（地域に根差し、地域と共に発展する）の精神のもと、120年の永きにわたり、利益の最大化ではなく、社会課題の解決を使命に取り組んでまいりました。

当金庫では、令和2年6月に公表した「SDGs宣言」に基づき、「経済」「社会」「環境」の3つの柱を軸に持続可能な社会の実現に向け取り組んでおります。

こうした中、令和4年10月21日付岩手日報のタブロイド版別刷特集に、当金庫のSDGsに係る取組み「再生エネルギー事業、森林環境保全活動、SDGs診断サービス、職員向けのSDGs・ESG金融研修会、児童養護施設への書籍寄贈、当金庫店舗での古本・制服回収ボックスの設置等」が掲載されました。

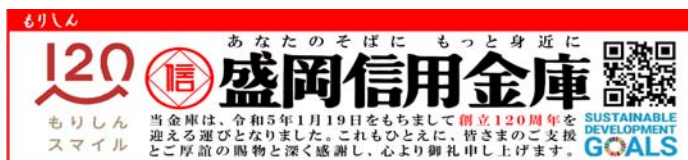
今後につきましても、サステナブルな未来に向かって、SDGs・ESGの更なる推進体制強化を図るべく、全役職員一丸となって取り組むとともに、自治体や企業の皆さまとパートナーシップを組み、地域金融機関としての役割を果たしてまいりますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】

盛岡信用金庫 企画部

（担当：高木）

電話番号：019-623-2221





DATA

盛岡市中ノ橋通1丁目4-6
☎019-623-2221



2022 2030
2030年までの目標

**環境と産業の共生
連携し実現目指す**

盛岡信用金庫
理事長
浅沼 晃



SDGsは幅広い分野の目標がありますが、まずは地域の課題を捉え、自分たちに何ができるかを考えることが大切です。環境問題も子どもの貧困も実は身近な問題です。どんな事業も私たち単独ではできません。同じ思いを持った方々と補完し合いながら、産業と環境が共生するよりよい社会を構築していきたいと考えています。

SDGsの取り組み



当金庫は「地域社会」「地域経済」「地域環境」の三つを軸に、SDGsの目指す持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいます。

SDGsが採択される前から課題意識を持って取り組んできたのは環境問題です。十数年前に紫波町と連携し再生可能エネルギー（再生エネ）事業をスタートしました。

ラ・フランス温泉館やオガールエリア、町内の公共施設で、木質バイオマスと太陽光由来のエネルギー供給システムを導入。2011年には町と「紫波企業の森づくりに関する協定」を締結し、植樹・育樹など森林整備を継続しています。エネルギーの地産地消や地域経済の好循環につながるこのような取り組みを、今後もどんどん応援していきたいと考えています。

6月に開かれたSDGsとESG金融の研修会。有識者である吉高まり氏を講師に招き、役職員約50人が参加した。



**中小企業の取り組みを応援
よりよい未来手渡すために**



創立120周年記念事業の一環で、盛岡市内の三つの児童養護施設に書籍などを贈った。来年と再来年も継続して寄贈する

SDGsが社会に浸透してきたとはいえ、中小企業においてはまだまだ十分とは言えない状況です。「何から始めたらいいかわからない」というお客さま向けに、今年4月から東京海上日動火災保険と連携し「SDGs診断サービス」をスタートしました。アンケートを基にした診断レポートを無料で作成し、「行動宣言書」を提供しています。また、6月には職員の理解を深めようとSDGsとESG（環境・社会・企業統治）に関する研修会を実施しました。

未来を担う子どもたちのために、盛岡市内の三つの児童養護施設へ書籍などの寄贈も始めました。当金庫店舗での古本や制服の回収・寄付も継続しています。次世代によりよい未来を手渡すための活動を、地域の皆さんと共に進めていきます。